

第1回有識者懇話会等における主なご意見と改訂素案（案）への反映状況

No.	章	主な意見	反映状況・考え方
1	目次	●目次を見る限りA Iが見えないので、目次にキーワードを入れるなど、工夫できないか。目次を読めば、ストーリーが分かると良い。	P1【目次】 ●全体のストーリーを分かりやすくするため、本編の目次に中項目や小項目を必要に応じて記載したほか、標題にA Iを加え、標題から内容が把握できるように修正。
2	1章 3章 4章	●G Xについて、金融の側面の記載が不足しており、産学官に「金」を入れる、あるいは、G X金融・資産運用特区の概要やG Xと半導体、G XとA Iの関係性を記載してはどうか。金融関係者にも半導体に目を向けてもらうという意味で良い。また、「エネルギー」政策を「G X」としてはどうか。	P4【第1章1 ビジョン策定の趣旨】 ●「産学官金の関係者が緊密に連携」する旨を記載。「エネルギー」を「GX」に修正。 P30【第3章2-1 再エネの供給と利活用③(産業集積の動き)】 ●「G X金融・資産運用特区」の概要等を記載。 P42【第4章1 めざす姿④-2 全道への効果の波及】 ●G XとA I、半導体・デジタル関連の産業政策を一体的に推進する旨を記載。
3	全体 3章	●北海道らしい、「北海道は何か尖ったことを言うな」という印象を与えられるよう、タイトルや見出しに新しさやインパクトがあると良い。A Iとデジタルは、道として、これまでとは違うメッセージを出すチャンスであるので、期待したい。 ●第3章について、北海道らしさがない。AIやデータセンターはどこにでもあり、差別化が感じられない。ラピダスを起点にして、ビジョンにどう影響が出ているのか。データセンターやAIがどう引っ張っているのか。北海道らしさを表現しても良いと思う。	●今回の改訂では、全国に先駆けて、A I政策のほか、G XとA I、半導体・デジタル関連の産業政策の一体的展開の視点を盛り込み、道独自の先進的なビジョンとしてお示ししたい。
4	全体	●第1～3章では、A I以外の情報に比較して、A Iの言及が少なく、第4章のめざす姿でA Iが突然出てくる印象がある。道内のA I関連企業情報、地域のニーズや課題を入れて、将来につながるA Iの種があること、北海道でデジタル化やA I化が展開する可能性があることを示してはどうか。	P42【第4章1めざす姿④-2 全道への効果の波及】 ●説明文に「地域ニーズをもとに、スマート農業をはじめ、様々なA Iの研究開発や実証・実装に取り組む」旨を記載するとともに、図に「地域で生じている様々な課題」の例を記載。 ●道内のA I関連企業情報等の記載について、検討していく。

No.	章	主な意見	反映状況・考え方
5	4章	●地域拠点は供給側、それとも受益側の話か。地域拠点のイメージをある程度持つとすると、供給側の何かが地域に集積するということか。 ●A I は誰が使うのか、誰が対象かということが必要だと思う。また、実証でAIはどう活かされるのか、具体的なイメージが分かると良い。	P42【第4章1 めざす姿④-2 全道への効果の波及】 ●供給と受益の両側面を含むと考えており、図に、事業者や住民双方の視点で、地域課題と解決によるひ益の例を記載。 ●図の「AIの研究開発の推進」に、「自動制御による除雪」の場合は、A I による「人や障害物を探知」など、AIの活用イメージを記載。
6	4章	●資料（第1回懇話会資料5頁）では、（再エネの供給、道内での再エネ利活用の次に）突然、社会実装の話が出てきて、一つの手段としてA I が示されているが、その間が抜けていると思う。産業セクターをどうつなぎ込むかをもう少し書き出す必要がある。道は旗振り役として、エネルギーやデータセンター、半導体といった産業の集積を、A I の社会実装につなげていくための施策等を検討すべき。 ●「自動運転」は何れの産業、暮らしでも使える技術であり、農林水産業などと並びが違うと思うので、変えた方が良いのではないか。既存の産業が、課題解決のためにA I の社会実装を図って成長していくモデルを全国、世界に輸出していくようなイメージを入れられれば良いと思う。自動運転や遠隔医療を新産業にするのではなく、既存の産業の中に取り込まれるイメージを持っている。	P42【第4章1 めざす姿④-2 全道への効果の波及】 ●図に、「地域で生じている様々な課題」を踏まえたマッチングなどに取り組む流れを記載。 ●「自動運転」を活用する既存産業の「運輸業」を例として記載するとともに、「A I 活用モデルの全国展開」を追記。
7	4章	●視野に入れておくべき産業として、特に札幌の強みとして、コンテンツ産業がある。デジタルとコンテンツ、アニメやソフトウェアは非常に相性が良く、産業振興と言うとき、この点も視野に入れて知恵を絞れたら良いと思う。	●本道はI Tやデジタルコンテンツの企業・人材が集積しており、引き続き、関連産業の振興に向け、取組を進めていく。
8	4章	●データセンターやラピダスは供給側の話。データセンターは住民が直接使うわけではない。社会実装の部分をどうするか、「課題」を足して、施策にしていく。実証することで、地域全体に効果が波及する。図と説明文の内容を合わせて分かりやすくした方が良い。 ●デジタルパークは全道域ということの説明が必要。「展開」と言うと拠点のイメージになる。	P42【第4章1 めざす姿④-2 全道への効果の波及】 ●図に、「地域で生じている様々な課題」を踏まえたマッチングなどの施策に取り組む、実証・実装を通じて「暮らしの利便性向上と地域産業の省力化・生産性向上」というひ益につなげるイメージを記載するとともに、「全道をデジタルパークに」の文言を追記。
9	4章	●A I の流れが加わり、地域にひ益して、実装につながっていくということかと思うが、よく読めば分かるが、地域拠点が分かりにくい。	P42【第4章1 めざす姿④-2 全道への効果の波及】 ●地域拠点到代えて、道内各地域におけるD X 展開の流れをより具体的に記載。

No.	章	主な意見	反映状況・考え方
10	4章	● 地域課題は本当に素朴で、A I など使えるとは思っていない人が、地域課題としてぼろっと言ったことが実は面白いということがよくあるので、そういう地域課題を聞ける体制が大事であると思う。	P49【第4章4 全道への効果の波及に向けて①(方針4-①)】 ● 具体的な取組として、地域課題の解決に向けた技術シーズと地域課題とのマッチング等を記載。
11	4章	● 共通のプラットフォームや話ができる場など、A I を語れる人づくり、手を動かせる人づくりから始めていくのが、夢には終わらない一歩目、一丁目一番地ではないかと思う。 ● 「半導体人材」の定義があるとうれしい。半導体という「モノ」を作るところは、人手がかからないように考えられていると思う。生産工程、不良品、周辺のところにAIが出てくる。ものとしての半導体という教育だけではなく、A I など周辺も教育に入と思う。	● 道内におけるA I 利活用の拡大に向けては、人材育成が重要と認識しており、道として施策を検討する。
12	5章	● 目標値について、ビジョン改訂の趣旨がA I を盛り込むことであれば、A I の関連で設定した方が良いのではないかと。現時点で指標を立てるのが難しいのであれば、今後、指標について検討していく旨を記載するのも良いと思う。	P54【第5章2 目標値】 ● A I 関連の目標値の設定について、検討していく。